

令和5年度第3回みやぎ観光振興会議仙南圏域会議 議事録

1 開 会

2 挨拶

3 議 事

■ 議事（1）仙南圏域の観光施策の今年度実績と来年度計画について

議事（2）「みやぎ仙南応援大使」設置事業について

※事務局から一括説明（議事（1）の市町の取組については各市町から説明）

【意見等】

（安倍委員）

- ・コロナ禍中では様々な割引があり、多くのお客様にいらしていただき、おかげさまで旅館は活気づいた。仙台市は長く割引のキャンペーンをしていて、その間仙南の来客は少ないように感じた。春の行楽シーズンに向け、季節の花や様々なイベントをお客様にアピールし、来てよかったと思っただけのようにしたい。
- ・去年、「秘密のケンミンショー」でうーめんが全国的にPRされ、テレビの効果はすごい、魅力発信にはテレビの協力も必要と感じた。旅館は衣食住全てを体験できる場所。仙南は「みやぎ蔵王ハーモニー花回廊」があり、その時期の風景を紹介していくためにも勉強していきたい。
- ・インバウンドは「コト消費」を望む方が多い。一條旅館がインバウンドを対象としたラグジュアリーホテルを来年秋に新設する取組は嬉しいニュースだ。客層毎にどうアピールするか、ホテルそれぞれの魅力を活かし、自分らしく頑張っていきたい。

（伊藤淳委員）

- ・事業に濃淡はあるが、方向性は県の指針どおり、アドベンチャーや広域連携、消費回復などを行っており、継続していくべきだと感じた。その中で、このように関係者が顔を合わせる機会があるので、連携をもっと強化できるのではないかと感じており、協力できればと考えている。
- ・齋理屋敷は3年目。1年目が7000人、2年目が9000人、コロナ真ただ中にしては健闘した。3年目の目標は10,000人だが、少し厳しいかぎりぎりといった状況。まだ3月末までできることはあると思っている。集客のためのSNS、チラシ等、告知をやり切れたか振り返りながら、あと2週間程度頑張っていきたい。自分たちは頑張っているが、やりきれなかったところを皆さんに頼ればよかった。みんなで集客し合ってお互いに活性化していけるとよい。

（伊藤直美委員）

- ・事業成果を拝見して、前回は感じたが、仙南地域の観光振興の意識の高さを感じた。
- ・4月に開校、ようやく1年間が終了する。1年生だけなので大きな活動はそれほどないが、企画デザイン科では、皆さんにお世話になりながら地域の勉強をしてきており、他の科の生徒も地域探究の授業を行ってきた。生徒の意識の高まりを感じており、外に飛び出す抵抗もなくなっている。2年生に進級してからの展開も楽しみにしている。教員も試行錯誤で取り組んでいるが、2年生からは観光について学ぶ科目を設定する。先ほど説明いただいた次年度の観光人材育成事業の取組で当校と連携させていただくことを計画しており、生徒が実際に地域の現場を見ることも考えている。これまでの取組は結果的にキャリア教育にもつながっており、大人の姿を見て自分たちの将来像を描く刺激になっている。今後も地域の皆さんにお世話になることは多いと思うのでよろしくお願ひしたい。

（大宮委員）

- ・みやぎ蔵王山麓アクセス線は乗車がかなり増えており、4割以上が外国人で特に台湾中国韓国。乗り切れない状況が1、2月にかけてしばしばあったが、3月に入って徐々に落ち着き始めてきた。暖か

くなればキツネ村への乗客が増え、夏場は減ってくる状況となる予想。キツネ村を中心として鎌先温泉、遠刈田温泉に向けてもバスがあるが、乗り切れない状況に対してどう対応していくか考えていく必要がある。地域に足を運んでもらうため、継続的にやっていく。

- ・ツアーバスについては大手旅行会社と組んで、蔵王山麓を中心として、いちご狩りなども含めたツアー。週末中心で外国人の方が多く、仙台駅東口からの予約も増えてきている。今後さらに磨き上げてより良い形のツアーを造成し、展開していきたい。

(小野寺委員)

- ・ツアーの問い合わせが増えており、コロナ前に戻ってきている印象。遠方からの人の動きがでており、来場客数はコロナ前よりも増えている。インバウンドの需要はもともとそれ程なく、あまり感じていない。
- ・大変なのはスタッフの補充。対応しきれない場合、お断りしなければいけないので、何とかしていきたい。土日休みではないので、求人票を出してもサービス業をしたい人でないと応募がない。また、人件費が高騰しているため、給料も上げている。地元で採用していきたい。
- ・観光人材育成の取組として、大河原産業高校で講義をする機会があった。ただ、製造業ではあるが、色々なサービス業の企業がブースを出して高校生と接する機会はあまりなく、身近に感じていただくためにもサービス業を行う上での思いや喜びを直接伝える機会がほしいと考えていた。
- ・大河原商業高校のコンピュータ部と連携しながら商品開発をしており、生徒メインで農産物も絡めていきたい。閉校記念として地元の肉や野菜を使った角煮を開発、同窓生等への配布を検討している。高校生や地元をメインとして PR するとストーリー性も出来るし、テレビなどでも取り上げられやすい。

(笠原委員)

- ・コロナの影響は確実に小さくなっており、回復は期待するほどではないが着実に進んでいる。人手不足の問題はどうしてもあり、コロナ以前と環境が変わっており、対策を取っているところ。酪農畜産を取り巻く環境はエサの高騰等で厳しくなっている。チーズや観光を中心に回復していきたい。
- ・人が活発に動いているので、交流人口を増やすような方策を行っていただきたい。地域住民に商品券を配るのではなく、交流人口を増やす方向にシフトチェンジしていただきたい。PR は重要で助かっているが、自分たちも魅力を磨いて、取り上げていただくために頑張っていきたい。

(嶋崎委員)

- ・去年角田市に新しく宿をオープンした。柴田町の宿泊数も、コロナの影響はもともと少なく、順調に推移している。3月からは船岡城址公園で飲食店を始めることになった。
- ・船岡城址公園で先日 10 日に行われたイベントでは、高校生が開発をした商品がかなりの売上だったと聞いている。若い方の発想と力は素晴らしい、応援したいという人も多い印象。若い人の力を借りながら活用していくのがいい。4月から子供が中学生になるが、学校と社会の差は大きく、学校で学ぶことと社会の現実にギャップがあると感じている。飲食店は娘にも手伝わせたいと考えている。子供たちに社会とつながる接点を作ることが重要で、人手不足の解消につながると思っている。

(質問)

- ・宿のインバウンドは6～7%で、欧米中心、連泊する人が多く、台湾がなぜか少なかった。現状どの国籍の人がどのくらい来ているのか伺いたい。平日の集客に大事なマーケットになる。

(回答：観光政策課)

- ・県全体では、国籍別では台湾中国韓国が多い。欧米は1～2割と少ない。仙台空港は台湾就航便が一番多く、5割以上が台湾人となっている。

(藤野委員)

- ・コロナの影響について 2019 年のオープンなので比較は難しいが、昨年度 24 万人、今年度 26 万人がレジを通った。年間 100 万人くらいは訪れたと思われる。
- ・来場者について、お試しでデータ分析を行った。結果、仙台駅から南、福島県浜通り中通りの人が多いと分かった。また、道の駅村田、山元夢いちごの郷からどのように人が流れているかを知ることが

できた。今までは肌感覚で、近隣でイベント（丸森町の猫神祭や山元町のいちご販売）があったら、1割程度は流れてきていると感じていたが、データもまさにその通り1割程度の客が流れていると分かった。ただ、費用として300万程度/年かかる。県で予算があれば、データ分析をやっていただきたい。年契約でなくても、月契約や日にちを分けてデータを取る等で対応できるのではないかな。

- ・連携で、置賜と福島との連携があるが、亘理山元との連携ができないかを感じている。
- ・角田高校の家庭部が、道の駅かくだでおふるまいを実施した。地域との連携や地元の食材を見つめなおすきっかけになり、若い力を活用して継続的にやっていきたい。

(村上委員)

- ・平成9年4月にオープンして今年で27年目になった。流れを見ると、お客さんは道の駅村田だけではなく、白石蔵王角田と仙南地域を周遊している傾向が強く、地域の連携が重要と感じている。
- ・仙南地域の周遊企画では配布したグッズがすぐなくなった。それだけ人気があるイベントだったと感じている。仙南地域のつながりをもっと自由に考えていければよいと思う。
- ・柴田農林高校との連携で、道の駅村田で苗の販売を行ったことがある。今後も何らかの形でお互い活用していければと思う。
- ・グリーンツーリズムでソラマメ、トウモロコシの収穫体験が人気がある。コロナも落ち着き集客があるので、これからも取り入れていきたい。

(横山委員)

- ・丸森町は特徴が出せないと言いながら観光は一生懸命やっている地域。去年は「丸森いち」が50周年ということで商工会と協力してブルーインパルスが練習含めて2回飛び、来場者は7万人程で角田警察署まで車が並んだと聞いている。
- ・舟下りは今年で60周年。ニーズが下がっていると感じているが、近年の努力で、旅行会社にツアーに組み込んでいただき、1回当たり30人程度で16本程度催行していただいた。土日の予約が埋まり、一般向けの就航ができないということもあり、まだ捨てたものではないと感じている。ナイトクルーズや写真コンクールなども開催し、PRも広がりが出てきている。
- ・猫神様をテーマとしたイベントは今年で3年目。1回目は500人、2回目1000人、今年は1,350人と伸びているので、続けていく必要がある。
- ・みやぎ蔵王地域の逸品に推奨された「森姫」は、去年は1月8日に製造し、700本が2週間で売れた。今年度は12月8日に2,000本製造し、残りは420個と随分売れている。去年よりも今年の方が美味しいと評判が良く、製造元の蔵王酒造にも伝え、喜んでいただいている。
- ・災害に関連して、丸森町に防災ステーションの計画が進んでいる。災害時以外の平時には、観光ゲートウェイとして活用していく計画で、具体的な事はこれからだが、令和8年度オープン予定。

(佐藤委員)

- ・市町の取組について、白石市の甲冑体験はインバウンドに効果的、角田市の阿武急の活性化は、県とのタイアップで今後もぜひ行ってほしい。蔵王町はジオパークのロゴマーク公募いただいております、今後必ず認定されると思うので楽しみにしている。七ヶ宿町は長老湖のSUPやベガルタの取組など引き続き複合的に行っていただきたい。村田町は昨年オープンしたオルレを一時的なものではなく息の長い活用としてほしい、また、SUGOとの連携もお願いしたい。川崎町はプロモーションの取組として、YouTubeや雑誌りらくなどのPRの効果が高いと思っている。丸森町の割増し商品券はすごいと感じている、合わせてころ柿、猫神祭など丸森町ならではの取組を引き続き行ってほしい。
- ・「みやぎ仙南応援大使」の新井さんは大河原町の出身だが、大河原町の齋町長から、仙南全体のPRに使っていただきたいとの話があり、ぜひ今後活用してほしい。
- ・嶋崎さんからインバウンドの現状の話があったが、令和元年度は過去最高で50万人、その後コロナで落ち込んだが大分復活してきたと思う。6月に観光統計が出るので、正確な数字はその頃出る。

(宮原委員)

- ・コロナ後、徐々に人が戻ってきている実感を得ることができた。インバウンドの市場は、色々な利用料金があがっており、宿泊料や甲冑体験なども外国人向けの価格になっている。仙南の観光では、日

本人旅行者が回りやすい、楽しみやすいような価格帯も意識して設定していただきたい。

- ・現在はスマホで旅行している時代。ホームページや、看板やチラシなど発信媒体に QR 情報を入れることなど、スマホ利用者を意識した情報発信を進めていただきたい。
- ・人手不足について、地域おこし協力隊や高校生、何かしたいシニア、別荘に住んでいる人など土日や隙間時間など、働き方次第で入ってこれる可能性はあると思うので、雇用者がどこまで柔軟性をもって対応できるかもっと工夫し、きめ細かな対応を是非検討してほしい。
- ・藤野さんから提案のあった、民間企業が提供する観光客の動向データを利用することは、地域のマーケティングに効果的なので、振興事務所で仙南の事業者が共有できる仕組みについて検討していただき、多様性に富んだ取り組みが進んでいけばと思っている。

■ 議事（3）みやぎ蔵王三十六景地域の逸品の推奨について ※事務局から資料3により説明

【質問・意見なし】

→ 1 品目について推奨承認された。

■ 議事（4）その他

観光政策課及び観光プロモーション推進室より情報提供。

4 その他

（嶋崎さん）

- ・藤野さんの話から、データを活用し現状把握することは重要だと感じた。うまくデータを使っていたければ。

5 閉会（以上）